

002 Prologue

005 特別インタビュー・全日本女子選手権
渡邊タイ (熊本) **勝つための主張**

012 特別ルポ・全国高校選抜&インターハイ優勝
守谷高校 (茨城) **はなぜ強い？**

特集 **戦術の研究**

024 高校剣道部 頂への視線
九州学院高校 (熊本)
戦術がはまった2023年インターハイ

032 **鈴木 剛** (千葉・教士八段)
長く活躍するために大切な“考え方”

042 **高倉聖史先生**の剣道レッスン
(柘の葉剣道感謝祭より)
ルール・環境を変えれば見えてくる

045 **アーカイブ** 攻略の実戦論

048 **AIと経験を駆使して攻略法を伝授**
四宮輝斗 (ウマズラ先生)

052 **若生大輔** (北海道・教士七段)
地元での経験を全国大会で活かした結果

055 **エピローグ** 道しるべ④⑤

大会・トピックス

058 展望・全日本選手権

060 全日本実業団大会

068 関東女子学生優勝大会

070 関東学生優勝大会

056 特別寄稿 井手水月 (宏道会)

067 全日本東西対抗大会、国体、少年都道府県大会の結果

096 寄稿 剣道出会い旅 (フランス編)



目次 剣道日本

表紙撮影 窪田正仁 表紙デザイン トモ・ヒロ
デザイン・DTP/トモ・ヒロ 沖田匡宏
本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

連載

073 強豪選手の必勝技「ツワモノ」に学べ！
④④ **兵藤裕則** (NTTコミュニケーションズ)

082 連載
脱力剣道の魅力 玉野輝男
⑫「遠山の目付け」に潜む極意

088 **剣道とコンディショニング**
⑭ 競技力向上にもつながる
動体視力の研究 1

100 **師の教え～指導者としての思い**
藤原崇郎 (範士) 聞き手・鳴本敬一郎
② “楽しさ”を軸のひとつに

102 読者投稿ページ 剣客万来

104 **コラム** 馬場欽司
敗者はいない
189 立合における五箇条 其の一

105 **剣道女子**
⑥⑥ **大蔵茉央** (茨城・青葉中学校)

110 **名手が選んだ剣道具**
④③ **山本清吾** (奈良)

114 編集後記・次号予告

090 **各種イベント情報、大会結果**
盛岡地区剣道大会 (岩手)、東日本少年剣道大会・和田旗大会 (福島)、青山杯郡上凌霜高校大会 (岐阜)、和歌山ビッグホエール杯全国選抜少年錬成大会、西日本選抜黒瀬杯争奪大会 (広島)、一本杉義雄杯争奪大竹大会 (広島)、三豊近県記念大会 (香川)、各地区学生大会の結果 (北海道、東北、北信越)、Book Guide

※前号の予告と一部内容を変更しています。
連載「剣道普及のカタチ」は休載させていただきます。

第65回全日本実業団剣道大会

令和5年9月19日(祝・月)日本武道館 主催◆全日本実業団剣道連盟

「未来に賭けた」パナソニック。 EW門真チームが返り咲き

前回大会より再び日本武道館での開催となったこの全日本実業団大会。今大会には、全国から340チームがエントリー。前回大会優勝の三井住友海上(本店)、関東大会3連覇のNTT(本社)をはじめ、近畿、九州の実力派チームが熾烈な優勝を争いを展開するも、大会の頂点に立ったのは近畿の強豪・パナソニック(EW門真)。剣道部としてはBチームにあたる門真チームだが、第59回大会(2016年)に続く2回目の日本一達成。変わらぬ層の厚さを見せた。



決勝戦終了直後、笑顔があふれるパナソニック(EW門真)のメンバーたち。優勝の立役者となったのは「未来ある」新人の川崎。代表戦で思い切った試合ぶりを見せた

取材◆岡井博史
撮影◆窪田正仁



優勝 パナソニック(EW門真)
川崎陽也(22歳)、小阪拓海(23歳)、安井奎祐(27歳)、高優司(33歳)、日下達基(32歳)、遠田雄一(23歳)。監督=勝見健太(39歳)



決勝の代表戦を制し、勝見監督からねぎらいを受ける川崎。最優秀選手賞を受賞した川崎。

高校、大学と輝かしい戦績を収めてきた大将の梅ヶ谷翔が力を発揮し勝利。準決勝では富士フイルムの同門対決という、同社にとってはうれしい顔合わせも実現させ、決勝へと臨んだ。

しかし、ここで富士フイルムの前に立ちはだかったのは、準々決勝でAチームが苦杯をなめさせられた関西の雄・パナソニックのBチーム・EW門真チームだった。

Bチームとは言うものの、選手層の厚いパナソニック勢においてはチーム間の実力差はほぼなく、第59回大会(2016年)

では門真チームが日本一、その翌年の大会では本社チームが優勝、門真チームが3位入賞という輝かしい歴史を持つ。

門真チームの決勝進出は優勝した第59回大会以来のこととなるが、その立役者となったのは先鋒の川崎陽也だった。今春、中央大学を卒業したばかりの川崎はもともと同大学の主力選手として全日本学生優勝大会優勝に輝くなどの戦績を残す実力者だが、今大会では実業団剣士として「覚醒」したかのような大活躍を見せた。

シードにエントリーされた門

真チームは今回2回戦から出番となったが、先鋒の川崎の戦績はその2回戦から準決勝までの7試合すべてで二本勝ち。富士フイルムB1との決勝戦こそ一本奪うにとどまったものの、日本一を決める大事な試合で見事に白星を先行させて見せた。

決勝戦、先鋒戦を落として苦しい富士フイルムB1だったが、次鋒の上段・米満将広がコテを奪ってすぐさまスコアをタイに戻したのはさすがの勝負強さだった。

結局、試合は代表戦へともつれ込み、富士フイルムB1からは大黒柱の梅ヶ谷が出陣。一方のパナソニックはここに川崎をぶつけた。チーム内には大阪府代表として全日本選手権大会に出場した経験のある高優司などの実力者もいたが、ここは勝見健太監督の「未来に賭ける」という決断により、新人・川崎を起用。結果、川崎は監督の期待に応え、中大の先輩にあたる梅ヶ谷を撃破した。

采配がズバリ当たった勝見監督は充実の笑顔。

「優勝は5年ぶりのこと。コロナ禍もあり、去年も結果が芳しくなく、苦しかったです。Bチームだって優勝できるのはウチの



決勝

【代表】川崎(パナソニック・EW門真) 対 梅ヶ谷(富士フイルムB1・本社)
▲好調の新人・川崎と戦績豊富な梅ヶ谷が激突。代表戦という緊迫感あふれる場面でも両者積極的な技の応酬を見せ、最後は川崎がメンの打ち合いで勝った(写真左が川崎)

チーム	先	次	中	副	大	得点	代
パナソニック(EW門真)	川崎陽也	小阪拓海	安井奎祐	高優司	日下達基	1	川崎
富士フイルムB1(本社)	工藤	米満	黒木	藤田	梅ヶ谷	1	梅ヶ谷

日々仕事と剣道を両立させる実業団剣士が集い、日本一を決める本大会。今回は340チームがエントリー。会場の日本武道館には16もの試合コートが設けられ、各試合場で熱戦が展開された。

全国各地区それぞれを代表する強豪チームは数多いが、いざ実際の実力差となるといずれも紙一重。事実、昨年久しぶりの日本一に沸いた三井住友海上(本店)は大会3回戦でNTT西日本(本社)の前に敗退。絶対対のない、実業団大会ならではの怖さと面白さを改めて感じさせた序盤戦の好勝負だった。

三井住友海上が大会開始早々に姿を消すと、第63回大会(2021年)の覇者であり、九州地区を代表する強豪・九州電力(本店)も同じく3回戦敗退。こちらは対戦相手が優勝候補の一角・富士フイルムB1(本社)という組み合わせの不運はあったものの、先鋒から副将まで四連敗を喫するという意外なスコア差での敗北となった。

九州電力を破った富士フイルムB1はやはりこの勝利で勢いづき、その後も着実に勝利を重ねていく。大きな見どころのひとつであった準々決勝のパナソニック(EW本社)との戦いも、



決勝

【梅ヶ谷 (富士フィルムBI・本社) ⊗】— 足達 (パナソニック・EW本社)

▲業団のAチーム同士の激闘は大将戦にもつれた。序盤、鋭い跳び込みメンで沸かせた勝利の一打はつばぜり合いから放った得意のひきメンだった (写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士フィルムBI (本社)		工藤	米満	黒木	藤田	梅ヶ谷	1
		×	×	×	×	⊗	1
パナソニック (EW本社)		池内	山田	沖崎	山崎	足達	0
		×	×	×	×	×	0



準々決勝

小林 (東芝テック・本社) ⊕ — 岩田 (NX商事・本社)

▲機動力のある小林が前へと攻めてコテ(写真)。後方に体をさばきつつ残心を取れば、この技が一歩となる。勢いついた東芝テックはその後連勝を飾る

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
東芝テック (本社)		小林	大西	新井	西浦	五十嵐	3
		⊕	⊗	⊗	×	⊗	3
NX商事 (本社)		岩田	木村	賀川	保坂	山内	2
		×	×	×	×	×	1



準々決勝

【副将】高 (パナソニック・EW門真) ⊗ — 初田 (三菱商事・本店)

▲全日本選手権大会への出場経験のある高。軽快な足さばきで攻めつつ好機を見極め、初田の出ばに鮮やかなメンを打ち込んだ (写真)



準々決勝

【副将】上原 (富士フィルムBIジャパン・本社) ⊗ — 藤崎 (西日本シティ銀行・福岡)

▲引き分けが続く展開のなか、魅せたのは42歳のベテラン・上原。剣先を開いて藤崎を誘うと、その出ばなをメンに乗った (写真は攻防)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士フィルムBIジャパン (本社)		福田	福岡	野村	上原	岩川	1
		×	×	×	⊗	×	1
西日本シティ銀行 (福岡)		永吉	吉本	本村	藤崎	梅ヶ谷	0
		×	×	×	×	×	0



準決勝

【大将】梅ヶ谷 (富士フィルムBI・本社) ⊕ — 岩川 (富士フィルムBIジャパン・本社)

▲富士フィルムの同門対決。リードを許している岩川だったが、ここでは冷静な試合運びを見せる。しかし、歴戦のツワモノ・梅ヶ谷もさすがの勝負勘を発揮。岩川のわずかな手元の浮きをコテに切った (写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士フィルムBI (本社)		工藤	米満	黒木	藤田	梅ヶ谷	2
		×	×	×	×	⊕	2
富士フィルムBIジャパン (本社)		福田	福岡	野村	上原	岩川	0
		×	×	×	×	×	0



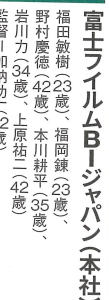
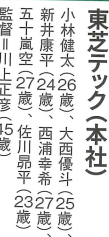
準決勝

【先鋒】川崎 (パナソニック・EW門真) ⊗ — 小林 (東芝テック・本社)

▲スピードはもちろん、当たりの強さに恵まれたフィジカルを感じさせた川崎。竹刀を大きく振って、コテ、メンと渡ればこれが一本に (写真)。二本目は小林の諸手ツギをさばいてメンを打ち込んだ

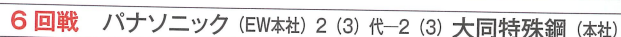
チーム	順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック (EW門真)		川崎	小阪	安井	高下	日下	1
		⊗	×	×	×	×	2
東芝テック (本社)		小林	大西	新井	西浦	五十嵐	0
		×	×	×	×	×	0

富士フイルムB1(本社)
工藤翔太(25歳)、米満広将(28歳)、
黒木裕二郎(24歳)、藤田啓人(25歳)
梅ヶ谷翔(28歳)、河内省吾(41歳)
監督〓住崎誠洋(43歳)



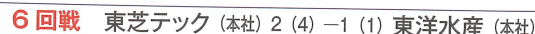
【代表】岩川 ヌー 丸山

▲大将岩川、副将丸山が臨んだ代表戦は開始からほどなく決着。色なく跳んだ岩川のメンが丸山をとらえた（写真）



【代表】山崎 ヌー 安藤

▲代表戦、パナソニックが山崎に勝負を託すと、大同特殊鋼は学生時代に全日本選手権出場経験のある安藤が登場。実力伯仲の戦いは山崎のメンで決着（写真は攻防）



【先鋒】小林 ①メ— 櫻井

▲開始すぐ、櫻井のメンを引き出した小林が抜きドウで一本(写真)。その後、小林はメンも追加した。東芝テックは次鋒こそ落とすも副将西浦が二本勝ちを挙げた